

## 5G通信

Vol.65



いま話題の次世代通信「5G」に関する  
とっておきの情報をご紹介します

## 地方創生への活用も期待される5G

## 地域や産業の個別ニーズに応じて柔軟に活用できる「ローカル5G」が拡大

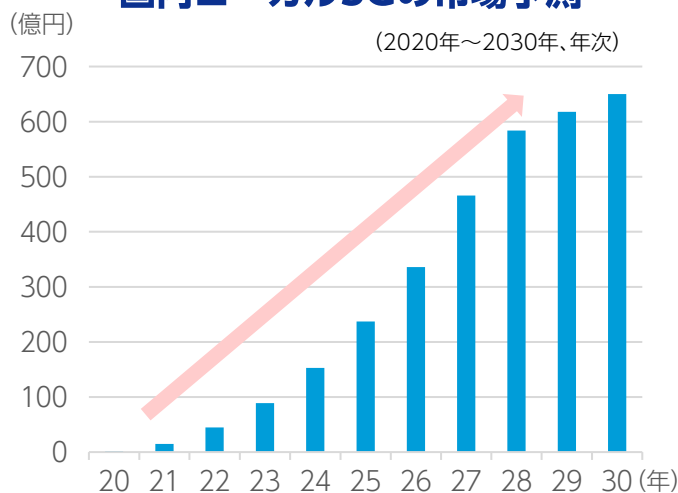
## スマートフォンの枠を超えた5Gの活用

- 日本において、5G(第5世代移動通信システム)の技術を応用した「ローカル5G」の利用拡大が進んでいます。国内のローカル5G市場は着実に商用化の段階に入りつつあり、調査会社Statistaによると2030年には約650億円まで拡大すると予測されています。
- ローカル5Gとは、通信事業者ではない企業や自治体が、一部のエリアまたは建物・敷地内に構築する専用の5Gネットワークのことで、広範囲で多数の利用者が用いる公共のネットワークとは異なり、他のエリアで通信トラブルや混雑が発生した場合でも影響を受けにくいという特徴があります。

## 利用拡大に向けた実証実験が進む

- また、外部ネットワークから遮断された環境で、自社専用の高速・大容量通信を使って安定的にデータの送受信ができるため、セキュリティ面でのメリットもあります。例えば、企業が工場の敷地内でローカル5Gネットワークを整備することで、ロボットによる自動運転や遠隔制御を高速・低遅延で、かつ安定的に行うことが可能となります。こうした「スマート工場」の他に、建設現場や農業・防災現場などでも安全性・効率性を高めるものとして、利用拡大が見込まれています。
- ローカル5Gの利用拡大は、人手不足・技術者の高齢化といった地方企業・自治体の課題解決や地方創生につながるものとして注目されています。例えば、高齢者の徘徊の即時検知や、防犯対策強化への貢献の他、高速道路トンネル内における安全・正確なメンテナンス作業、へき地における遠隔医療やリハビリ指導などの分野で活用が見込まれており、利用拡大に向けた実証実験が進んでいます。
- ローカル5Gの導入が更に広がることで、5Gが単にスマートフォンを通じた利用だけではなく、社会のさまざまな現場で広く活用されることとなります。5Gに対する需要の高まりは、5G関連企業にとって業績拡大のための追い風となることが期待されます。

## 国内ローカル5Gの市場予測



※ローカル5Gソリューションの売上高、2022年以降は矢野経済研究所予測値(出所) Statistaのデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

## ローカル5Gの活用のイメージ



※画像はイメージです。(出所) 総務省のホームページを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成



#### 【 ご留意事項 】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。